



新・災害対策委員会 第3回勉強会兼ワーキングチーム準備会 開催

新・災害対策委員会主催の第3回勉強会兼ワーキングチーム準備会を開催しました。過去2回の勉強会で講師をお願いした「食べる支援プロジェクト」メンバー3名から、冒頭、「BCP・CSV」、「CSR」、「人材育成」の3テーマについてプレゼン頂いた後、3グループに分かれ、グループディスカッションを行いました。「BCP・CSV」は、従業員向け備蓄の再考や、フェーズフリーの考え方、「CSR」は、炊き出し支援としてのレシピ考案、「人材育成」は、コーディネーター育成に焦点を当てて、非常に活発な議論となりました。今後、ワーキングチーム発足に向け、改めて準備会を開催致しますので、皆様のご参加をお待ちしております。

【主なご意見】

- フェーズフリーという考え方への理解が深まった。
この言葉を知らない人達も多くいると思うので、フェーズフリーという考え方を浸透させる情報発信も必要。
- 最初からメニューを決めておくことで、例えば業務用の冷凍野菜、肉、魚介類など、決まった物資の提供がしやすくなると思う。
どのようなメニューが被災地から求められるかを分析する事が重要。
- コーディネート役とは何なのか、自分がどんなことに役に立つのかということを考え、平時から経験を積むようなイベントや訓練の場が、まずあるといいと思う。

ご協力頂いた講師の方々



公益財団法人
味の素ファンデーション
事務局長
齋藤 由里子 氏



ピースボート
災害支援センター
(PBV) 理事
上島 安裕 氏



全国災害ボランティア
支援団体ネットワーク
(JVOAD) 理事
明城 徹也 氏

エネルギー・原発問題委員会 国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 大洗研究所 視察

政府による「GX推進戦略」に、安全を前提とした**原発の活用**という方針のもと**次世代革新炉への建て替え**が明記されました。改めて次世代革新炉への理解を深めるため、**7月12日（水）にJAEA大洗研究所の視察を行いました。**

【見学施設1：HTTR（高温工学試験研究炉）】

- ヘリウムガスは高温になっても安定しているため、原子炉燃料を**ヘリウムガスで冷却**。
- 核燃料にセラミックス被覆燃料を用いることで、高温でも融解しない。
- 万が一冷却材の流入がゼロになっても、**原子炉が自然停止、冷却する**。
（温度上昇で核分裂が止まる/減速材の黒鉛は伝熱性が高い）
- 原子炉出口冷却温度は950℃と世界最高であり、熱を利用した水素製造の実証も計画されている。
- 2023年12月には**出力100%での、冷却材流量を停止する試験**が予定されている。



▲HTTR見学風景

【見学施設2：常陽（高速増殖炉）】

- 原子炉燃料を**液体ナトリウムで冷却**。**自然循環による、熱除去**が可能。
- 高速中性子を用いて、ウランをプルトニウムに変換することで、**燃料の増殖**が可能。
- 半減期の長い放射性物質を燃やすことができるので、**放射性物質の有害度低減**が可能。
- がん治療に利用できる元素を大量に製造できる可能性。
※大量製造できる見込みはあるが、「常陽」再稼働後に実証実験を実施。



▲常陽見学風景

【事務局所感】

原発停止における「冷やす」機能をいかに電源喪失下で、維持できるかという安全面が考慮されている。発電だけでない一方で、商用への展開については、まだ先の長い話であると受け止めた。

JP-MIRAIの現場アカデミーへ参加 ベトナム現地訪問

7月24日(月)-7月28日(金)にて、ベトナム(ハノイ市内、ゲアン省、ハティン省)を訪問しました。

生団連はJP-MIRAIのアドバイザーメンバーであることから、今回JP-MIRAIの主催する現場アカデミーへ参加し、外国人の受入れに関する委員会の今後の活動に繋げるべく、**行政機関や送り出し機関などと意見交換や、現地視察をしてまいりました。**詳細については、次回会報誌にて掲載いたします。

【主な訪問先】

DOLAB（ベトナム労働傷病兵社会省海外労働局）、在ベトナム日本国大使館、国連機関（IOM,ILO,UNDP）、ゲアン省労働傷病兵社会福祉局、ハティン省外務局・労働傷病兵社会局・教育訓練局、ハイフォン株式会社などの送り出し機関、THANSENCO（日本語学校）

【主な意見交換内容】

1. ベトナム全体の実情や地域の実態
2. 海外労働先として、日本を選ぶ理由や選ばない理由
3. 技能実習生の借金問題を中心とした、適切な受入れのありかたについて
4. 今後日本へ期待することや、受入れ企業への要望



▲送り出し機関での意見交換の様子



▲日本語学校の先生や生徒たちと

ジェンダー主流化委員会 第3回勉強会 開催



▲大崎麻子様(ジェンダー・ダイバーシティスペシャリスト)

▲蘭田綾子様(株式会社 クレアン代表取締役)

▲会場風景

7月11日(火)ジェンダー主流化 第3回企業分科会を開催しました。

企業分科会は、これまでの勉強会とは違い、企業のジェンダー主流化を生団連から、より具体的に進めていく活動となっております。第3回企業分科会は18企業・23名の方に参加いただき、「**企業のアクションを自治体と共に具体的に考える**」といった内容のロールプレイングを行いました。

参加企業の皆様には自治体の各担当者の役になりきっていただき、多様性のある未来実現のための対話を実践いただきました。



ニュースレター

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会(生団連) 出水・石井 ☎ : 03-6833-0493 ✉ : jimu@seidanren.jp
〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル8階 URL : <https://www.seidanren.jp/>